

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成20年7月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201192
法人名	有限会社 シリウス
事業所名	グループホーム レラティブ別府
所在地	神戸市西区北別府5丁目31-4 (電話) 078-975-5888
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号
訪問調査日	平成20年6月27日

【情報提供票より】 ( 20年 6月 9日事業所記入 )

( 1 ) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 15日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	20 人 常勤 6人, 非常勤 14人, 常勤換算 12.4人

( 2 ) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 1~3 階部分

( 3 ) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円 )	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300000 円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

( 4 ) 利用者の概要 ( 6月 9日現在 )

利用者人数	26 名	男性	6 名	女性	20 名
要介護 1	2	要介護 2	9		
要介護 3	8	要介護 4	3		
要介護 5	2	要支援 2	1		
年齢	平均 85.4 歳	最低	69 歳	最高	100 歳

( 5 ) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 健裕会 中村医院 偕生病院
---------	----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

「共に生きる 共に笑い、共に泣き、共に喜び、共に悲しみ、共に楽しむ」という理念が職員に浸透し、利用者を主人公とし職員が過不足なく必要な自立支援を行う方針に基づいて日々のケアが行われている。基本的なスケジュールは決められているが、利用者のその日の意向を尊重し、日常的な外出・家事への参加・趣味の継続など個別に対応している。食事については、独自のルートから仕入れた季節感のある新鮮な食材で、フロアごとにアレンジを加えて調理するなど健康面と利用者の楽しみを考慮して提供されている。定期的な往診に加え、利用者の身体状況に応じて訪問看護・訪問リハビリを導入するなど、健康管理・機能低下予防についても取り組まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果は、フロアで回覧すると共にフロア長から職員に伝えられ、運営推進会議でも報告している。改善については、ホーム長とフロア長が立てた改善計画に基づいて、各フロアで取組んできた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回の受審についてはミーティングで職員に説明し、自己評価票については職員の個別面談の際聴取した内容を参考にフロア長が作成し、ホーム長が完成させた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議の他に、あんしんすこやかセンターの職員やケースワーカーの訪問が定期的であり、意見交換・相談ができる体制がある。また、地域の連絡会に参加したり、担当窓口を訪問し情報交換するなど、行政と連携をとりサービスの質の向上に繋げている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 家族の訪問が多いため、家族が気軽に苦情や要望が伝えられるな雰囲気作りに配慮すると共に、職員の方からも声をかけ積極的に聴取できるように取組んでいる。苦情・意見・要望は、申し送り・ミーティングで共有し迅速に対応している。家族会は作られていないが、運営推進会議の席でも家族からの声を聞くように取組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 行事に招待を受け参加したり、福祉体験を受け入れるなど、近隣の幼稚園・小学校との交流は多い。地域の喫茶店・美容院などと連携をとり協力を依頼したり、近隣の住民と馴染みの関係になるなど、地域の一員となるよう積極的に取り組んでいる。自治会・老人会への参加を目指して開設以来働きかけているが、受け入れられるに至っていない。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	3年前にスタッフ全員で作り上げた、「共に生きる 共に笑い、共に泣き、共に喜び、共に悲しむ」を介護理念として掲げ、利用者が主役となり、職員が寄り添ってサポートし共に生きることを目指している。		18年度の制度改正により、グループホームの基本理念に、地域密着型サービスとしての役割を目指した、「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という内容が求められているため、現在の理念を生かしながら、検討されることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内数箇所、見やすい場所に掲示し、利用者・家族・職員に周知できるように配慮されている。新入職員にはオリエンテーションで説明し、現任職員もミーティングで理念に立ち戻って話し合ったり、日々のケアの中で具体化していくことで、共有し実践に取り組んでいる。職員ヒアリングで理念の浸透が感じられた。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事に招待を受け参加したり、福祉体験を受け入れるなど、近隣の幼稚園・小学校との交流は多い。地域の喫茶店・美容院などと連携をとり協力を依頼したり、近隣の住民と馴染みの関係になるなど、地域の一員となるよう積極的に取り組んでいる。開設以来自治会・老人会への参加を目指して働きかけているが、受け入れに至っていない。		運営推進委員会・行政機関などの協力も得て、自治会・老人会への働きかけを継続されることを期待する。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の評価結果は、フロアで回覧すると共にフロア長から職員に伝えられ、運営推進会議でも報告している。改善については、ホーム長とフロア長が立てた改善計画に基づいて、各フロアで取組んできた。今回の受審についてはミーティングで職員に説明し、自己評価票については職員の個別面談の際聴取した内容を参考にフロア長が作成し、ホーム長が完成させた。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、利用者・家族・民生委員・あんしんすこやかセンター職員・知見者などを参加メンバーとして、2ヶ月に1回開催されている。利用者の状況・ホームの行事・サービス内容・取り組みなどを報告し、質疑応答・意見交換などを行い、サービスの質の向上に繋がられるように取組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の他に、あんしんすこやかセンターの職員やケースワーカーの訪問が定期的であり、意見交換・相談ができる体制がある。また、地域の連絡会に参加したり、担当窓口を訪問し情報交換するなど、行政と連携をとりサービスの質の向上に繋がっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4.理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問が多く、その際に利用者の状況・変化についてきめ細かく報告している。また、ホームの行事やコラムを盛り込んだ機関誌を発行すると共に、毎月1回居室担当者が、手書きの手紙で各利用者の健康状態や生活の様子などを報告している。随時の報告については、電話・メールで行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問が多いため、家族が気軽に苦情や要望が伝えられる雰囲気作りに配慮すると共に、職員側からも声をかけ積極的に聴取できるように取組んでいる。苦情・意見・要望は、申し送り・ミーティングで共有し迅速に対応している。家族会は作られていないが、運営推進会議の席でも家族からの声を聞くように取組んでいる。</p>		<p>家族は、意見や不満、苦情を言い出し難いということを理解し、定期的なアンケートによる満足度調査など、満遍なく家族の声が把握できるような取り組みを期待する。また、要望・苦情受付表に記録し、データ化・分析することにより、再発防止に活かされることを期待する。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>近年、異動・離職は最小限に抑えられている。3フロアが合同で活動する機会が多いため、利用者・家族共に職員全員となじみの関係にあり、やむをえない異動の際もダメージは軽減されている。職員の離職を防ぐ取り組みとしては、日頃からホーム長・フロア長が職員との個別のコミュニケーションを心がけると共に、フロア長との個別面談の機会を定期的に設け、不満・悩みを抱え込まないように配慮している。また、懇親会・誕生祝など職員交流の機会も設けている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が、いずれかの委員会に属し担当業務をしていく中で学習する機会が持てるように取組んでいる。外部研修の案内を回覧し、希望者については勤務調整など支援している。また、ホームの指示で受講する研修については勤務扱いとし、報告書作成の後、月例の学習会で伝達研修を行い、職員が知識を共有できるように取組んでいる。資格取得については、試験のシュミレーションを行うなど、合格に向けて支援している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム連絡会に参加し、ネットワーク作りを行い、3ヶ月に1回開催される連絡会で意見・情報交換を行っている。連絡会に参加しているグループホーム間で、見学・レクリエーションを行い、相互のサービスの質の向上に繋げている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者・家族が見学を訪れホームの雰囲気に触れると共に、職員が自宅を訪問し入居前の生活環境を知り、生活歴などを聴取している。希望があれば体験入居も可能であり、安心して入居できるように支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「共に生きる」の基本理念の下、一方的に介護するのではなく、寄り添って生活する中で自立支援していくことを方針とし、日々の生活の中で実践している。実践の結果、要介護2の利用者が自立判定が出るまでに回復されたという結果も出ている。利用者とのコミュニケーションを大切にすることにより、喜怒哀楽を共にし、また、利用者から学ぶ機会を得て利用者の生きがいにもなっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族状況・生活の様子・バックグラウンド・グループホームに望むことなどについて、詳細にアセスメントできるホーム独自のアセスメント様式が作成されている。入居時、利用者・家族からアセスメントする中で、思い・希望・意向の把握に努めている。入居後も、「共に生きる」中で、新たに発見したり、変化した希望・意向については、ミーティングで情報交換することにより、職員全員で把握するように努めている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回のミーティングで、職員が各利用者についての意見・情報交換をしている。利用者・家族の意向を中心に、職員の意見を取り入れて介護計画を作成し、利用者・家族の同意を得ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化・家族の希望などがある場合は、その都度介護計画の見直しを行っている。また、安定している利用者も含めて、全利用者について毎月1回サービス担当者会議を開き、職員全員で介護計画について検討し、3～6ヶ月の期間で介護計画の見直しを行っている。面会時や電話で家族の意見・希望を聴取し、介護計画に反映し、見直し後は家族に説明し同意を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護・訪問リハビリを利用し、在宅酸素など医療処置を受けながらの生活の継続や退院後の機能回復にむけた支援をしている。家族が同行できない通院や個別の希望に沿った外出には、職員が同行している。また、認知症対応型通所介護、短期利用型共同生活介護の開始に向けて、準備中である。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは24時間対応で連携が取れており、週に1回内科・月に1回泌尿器科の往診があり、認知症についても内科医に相談できる体制である。必要に応じて、歯科・総合病院への受診もあり、健康管理について家族の安心を得ている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化・終末期に向けた方針を家族に口頭で説明し理解を得、家族の意向を確認している。ターミナルケアについての外部研修に参加したり、主治医を招いて内部研修を行うことにより、職員教育が充実できるように取り組んでいる。		重度化・終末期に向けたホームの方針を明文化し、利用者・家族と共有することが望まれる。また、方針や支援の具体的な内容が職員間で統一できるように、マニュアルを作成し、勉強会などで定期的に確認することを期待する。


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入職時に個人情報保護・尊厳の尊重について説明し、誓約書を交わしている。職員の接遇については、管理者・フロア長が中心に確認し、必要に応じて注意を促しており、職員の利用者に対する言葉かけや対応は丁寧で親しみやすいものである。入浴介助は同性介助を原則とし羞恥心への配慮も重視されている。</p>		<p>現在検討中である事務所内の書類の保管書庫の施設について、実現されることを期待する。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>特にスケジュールは決めず、利用者がその日の意向に沿って過ごせるように支援している。利用者は、居室・共用空間・ベランダ・中庭などで思い思いにゆったりと過ごしているが、希望があれば外出・歌・体操・手作業などに参加できるように、職員が機会の提供をしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日配達された食材で、職員と利用者が下ごしらえから調理し、温かいものは温かく冷たいものは冷たく食事提供できるよう配慮されている。献立は決められているが、各フロアで工夫してアレンジしたり、食材の配達を止めて利用者の希望に沿った献立に変更するなど、変化をもたせる取組みがある。また、利用者と職員が談笑しながら食事を楽しむ、家庭的な雰囲気がある。</p>		



第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・回数は決めず、意向と入所までの生活習慣に沿って入浴できるように支援している。入浴に拒否傾向である利用者も、週に2回は入浴してもらえるように工夫して対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時のアセスメントで趣味・特技を把握し、継続できるように支援している。入居後もコミュニケーションの中で発見した楽しみごとの機会が提供できるように取り組んでいる。役割については、できること・できそうなことを中心に、下ごしらえ・配膳・下膳・洗濯物たたみなど、強制にならないように配慮しながら活躍の場を提供し、利用者の張り合いになるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園・買い物など、日常的な外出はほぼ毎日行っている。希望者を募って、喫茶店・食堂で飲食を楽しむことも多く、飲食店も協力的である。また、季節を楽しむ外出も行事の中で企画され、大きな楽しみとなっている。ベランダ、中庭には自由に出入りすることができ、いつでも外気に触れられる機会がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・1階フロアの扉は、夜間を除いて常に開錠している。2階・3階フロアの扉はできる限り開錠しているが、ご家族の要請もあり施錠している場合もある。利用者が外に出たい気配を察知して対応し、また、ベランダ・中庭には常に自由に出入りできるなど、閉塞感が生まれないように配慮しているが、全館開錠を目指して検討中である。		安全性を考えて施錠を希望されるご家族の不安を解消し、安全を確保しながら日中開錠できるような取り組みを継続し実現されることを期待する。
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回、2月・8月に、消防署の協力を得て、昼夜を想定した利用者参加の避難訓練を行っている。食材などの備蓄は、系列会社が行っている。今後は地域の協力が得られるような取り組みを検討中である。		運営推進会議などの機会を活用し、緊急時に地域の協力が得られる取り組みを継続し、実現されることを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー・栄養バランスを確保しながらフロアごとに献立をアレンジしたり、調理法を利用者の状況に合わせて工夫するなど、細やかな配慮がなされている。食事・水分の摂取量は、毎回記録され、把握しやすいように一覧表にまとめられている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分・居室の外周を回廊型にベランダが続き、採光と通気に恵まれた快適な環境が提供されている。共有空間は、清潔で臭気もなく、一人ひとりが思い思いにくつろげるよう、テーブル・ソファの配置に配慮されている。季節を感じさせる装飾品がさりげなく設置され、家庭的な雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・神棚が持ち込まれている居室もあり、家族の理解と協力を得て、使い慣れた家具・装飾品などに囲まれて、その人らしい生活が継続できるように配慮されている。		

 は、重点項目。